

みやまの里

(農) 東山茶業組合
静岡県掛川市東山 1821-12
第41号 令和元年晩秋

牧之原台地入植五十年

牧之原や東山はお茶の大産地として広く知られています。その始まりのお話です。

江戸幕府から明治維新になった時、大勢の徳川の家臣たちは仕事がなくなりました。生活のために働かなければならず武士たちは刀から鍬へ持ち替えて牧之原に入植したのが明治2年、今年で「牧之原入植150周年」なのです。武士たちは慣れない開墾作業に苦労したようです。今は平らで広大な牧之原台地ですが、当時は凸凹で文明なる重機もない時代でしたの大変な労働だったでしょう。



また「越すに越されぬ大井川」といわれた大井川にも橋がかかると、失業した川越人足も同じ開墾に従事したようです。

郷土誌によると東山で

は、明治15年頃茶の栽培する者出て、山林伐採して開墾、茶を植える者増加したとあるので牧之原の後のようです



荒茶製造施設の概要

今から17年前、それまでであった二つの共同工場と自園農家が統合編成されました。お茶は健康志向食品として人気が高まってきており、環境条件が整った衛生的な最新鋭システムの工場で製造されます。ここは標高220mと高くて日当たりもいいので、空気もすがすがしく空が近くにさえ感じられます。

令和元年現在の規模	
組合員数	21名
生葉処理数	1日5万キロ
製茶機械規模	250K5・3・5 二系列
床面積	3675㎡
建屋	荒茶製造棟 100m×25m 生葉管理棟 47m×25m
経営茶園面積	70ha



秋の祭典

毎年9月2週の土日開催・東山は107戸ほどの小さな自治区ですが4台の屋台があります。坂道が多くあるので、長い上り坂は4駆トラックがけん引してユニークです。



新商品紹介

「茶 楽らく」 急須・カップに

取り付けるだけ。お好きな緑茶で自由にお楽しみください。



東山八景・・・早朝、ちょうど連なる山々が、水墨画のように見えます



12枚入り 230円(税込)
茶葉は入っていません。茶楽らくを使用することにより捨てる手間と洗う手間が簡単になります